



2023年1月11日

各位

ENEOS株式会社

2023年 新年賀詞交歓会 齊藤社長挨拶（要旨）

当社（社長：齊藤 猛）は1月10日（火）、グランドプリンスホテル新高輪（東京都港区）にて、特約店や物流協力会社の方々をお招きして、2023年新年賀詞交歓会を開催いたしました。当社社長 齊藤 猛の挨拶（要旨）を下記のとおりお知らせいたします。

記

全国の特約店の皆様、物流協力会社の皆様、明けましておめでとうございます。年頭にあたり、ENEOSを代表して、新年のご挨拶を申し上げます。

1. 2022年を振り返って

昨年は、新型コロナウイルスやウクライナ情勢、欧米諸国の金融引き締め等の影響により、資源価格の高騰、歴史的な円安が引き起こされるなど、私たちの生活に多くの変化をもたらした年でした。

加えて、地震や集中豪雨といった自然災害も各地で発生しました。被害に遭われた特約店・SSの皆様には、改めてお見舞い申し上げます。当社はこれまでと同様に、エネルギーの安全・安定供給のため、平時から調達・生産・貯蔵・配送の機能について備えを万全にしていくなかで、特約店の皆様におかれましては、従業員の皆さまの安全を最優先に、今後も地域のライフラインを支えていただきますようよろしくお願い申し上げます。

2. 第3次中期経営計画に向けて

本年は、第3次中期経営計画の初年度です。足元のエネルギー事業は、製油所トラブルや電気調達コストの高騰等の影響を受け、極めて厳しい状況にあります。また、私たちを取り巻く環境は、社会ニーズの多様化、脱炭素に向けた機運の高まり、そしてデジタル化の進展によって、急激に変化しています。早期の収益改善を図り、V字回復を果たすためにも、こうした変化に対し、これまで通りの考え方に固執することなく対応していかなければなりません。

次期中計では、まずは既存事業の収益基盤を確実なものにしたうえで、事業全体を見直し、いつ・どのような手を打つべきかを明確にします。さらに、効率性を重視する経営を実践し、各事業をさらに研ぎ澄ませてまいります。そして、事業変革を一段と加速させていくため、デジタル技術を最大限活用するDXを従来以上に推進してまいります。

3. ENEOSのネットワークの将来像

今後は、エネルギー供給以外の事業の柱として、モビリティ事業の展開を本格化させてまいります。モビリティ事業では、カーリース・カーシェア・中古車販売等を展開し、移動をオールパッケージで支えるSSへと進化することを目指します。

また、エネルギー供給とモビリティ事業の2つの柱に加え、ライフサポート事業についても、サービス展開を加速化いたします。既に展開済みのコンビニやカフェ、ランドリー等のほかに、現在実証中の物流ハブ拠点や宅配ロボット等のビジネスモデルの早期確立を目指します。

さらに、エネルギー供給では電力の安定供給に向けた体制づくりも行います。2024年度運転開始予定の五井火力発電所による供給力確保、VPPシステムの構築による調整力創出等を急ピッチで進めます。

そのほかにも、電気自動車（EV）の普及に備え、ENEOS Charge Plusの展開を進め、燃料電池自動車（FCV）の普及に向けては、商用車に対応した大型の水素ステーションの整備を進めます。また、次世代燃料として期待されている合成燃料については、プロセス全体の早期技術確立に向け、国と歩調を合わせて開発を進めており、2040年までの自立商用化を目指します。

このような当社のサービス網を地域に根差して街全体に張り巡らせ、地域の生活拠点としてSSを進化させていくとともに、SSアプリで収集するデータを用いてデジタルマーケティングを進めることで、ENEOSのネットワーク全体を強化します。

4. 最後に

本年は、何かを開始するうえで状況が好転するといわれる卯年のなかでも、さらに「勢いよく飛躍する」という意味を持つ「癸卯(みずのとう)」にあたる年とされております。

『ENEOSは新しい1歩を踏み出した』と、実感いただけるような飛躍の1年にするため、ENEOSネットワークの将来像を見据え、当社のような施策をさらに充実させてまいります。

本年も、そしてこれからも、特約店の皆様と共に社会への使命と責任を果たし、未来を切り拓いてまいりたく、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

以上